

高森町立高森東学園義務教育学校の教育について



令和3年度運動会 5月22日(土)

1 高森東学園について

(1)沿革 平成29年4月 県下初の義務教育学校として開校

旧小学校

尾下小	野尻小	河原小	草部北部小	草部南部小
M 7 設立	M 7 設立	M 2 5 設立	M 7 設立	M 7 設立
H 4 閉校	H 7 閉校			
H 7 高森東小開校				H 1 7 閉校統合

旧中学校

野尻中	河原中	草部北部中	草部中
S 2 2 設立	S 2 2 設立	S 3 4 設立	S 2 2 設立
S 6 2 閉校			
S 6 2 高森東中開校			H 1 7 閉校統合

令和3年度、開校から5年目

2 義務教育学校について

(1) 義務教育学校とは、

学校教育法等の一部改正（平成28年4月1日法施行）

趣旨 学校教育制度の多様化及び弾力化を推進するため
現行の小・中学校に加え、**小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う「義務教育学校」を新たな学校の種類として規定**（学教法第1条関係）

(2) 全国の義務教育学校数

H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2
22 校	48 校	82 校	94 校	126 校

（R 2 年度現在の本県の義務教育学校数 2 校）

全国的には、増加傾向

義務教育学校とは、

小中一貫教育を行う、新たな学校の種類として制度化された学校

- 小学校、中学校の区別がない。従って、本校では、学年の呼び方は、1年生、2年生、…、7年生、8年生、9年生となる。
- 1～6年生は義務教育学校「前期課程」、7～9年生は「後期課程」と呼ぶ。



- 卒業するのは9年生のみ、6年生の卒業証書授与式はない。（前期課程修了式を、全体の修了式の時に実施）
- 入学するのも1年生のみ、ただし、7年生も義務教育学校「後期課程」進級式として、入学式と一緒に行う。
- 全職員で全児童生徒を見る。教科によっては、1～9年生の全学年の授業を受け持つこともある。（R3年度は、なし）
- 教育課程上の特例も認められている。



R3年度 入学式・進級式

小中一貫教育が求められる背景

- 1 教育基本法、学校教育法の改正による義務教育の目的・目標規定の新設（学教法21条）
- 2 近年の教育内容の量的・質的充実への対応
- 3 児童生徒の発達の早期化等に関わる現象
 - 昭和23年男子の身長のパークは、14・15歳
 - 平成25年男子の身長のパークは、12・13歳
- 4 少子化に伴う学校の社会性育成機能の強化
- 5 中1ギャップへの対応
 - 学年別不登校児童生徒数の増加
 - 学年別いじめ認知件数の増加 等

義務教育学校としての中心課題

- ★中 1 ギャップ緩和
 - ・ 学力向上
 - ・ 生徒指導の充実等
- ★教職員の意識改革、指導力の向上



→ 9年間を見通した学習指導、生徒指導、
「専門性」（主に中学校）と
「丁寧さ」（主に小学校）
文化の相互理解を児童生徒
の指導に生かす。



3 本校の指導体制

コミュニティ・スクールを基盤とした
小中一貫教育・ふるさと教育
(高森町重点施策)



(1) 児童生徒数・学級数（令和3年5月1日現在）

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
男子	4	2	2	2	1	1
女子	4	2	3	3	0	2
計	8	4	5	5	1	3

	にじいろ	7 年	8 年	9 年
男子	1	6	4	4
女子	1	0	2	3
計	2	6	6	7

にじいろ学級

- ・ 5 年男子
- ・ 6 年女子

男子27人、女子20人、計47人

(2) 教職員数

県費21人、町費2人、計23人



(3) ブロック制

4・3・2のブロック制

前期課程（1年～6年）				後期課程（7年～9年）				
Sブロック				Mブロック		Lブロック		
1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
学級担任制				教科担任制				
※体育、音楽等で教科担任制で授業を行う場合あり				※5年生は4教科で教科担任制（R3年度）				

各ブロックに、主任、副担任、学力向上推進リーダー、生徒指導

6年生から教科担任制（専門性を生かした指導の充実）

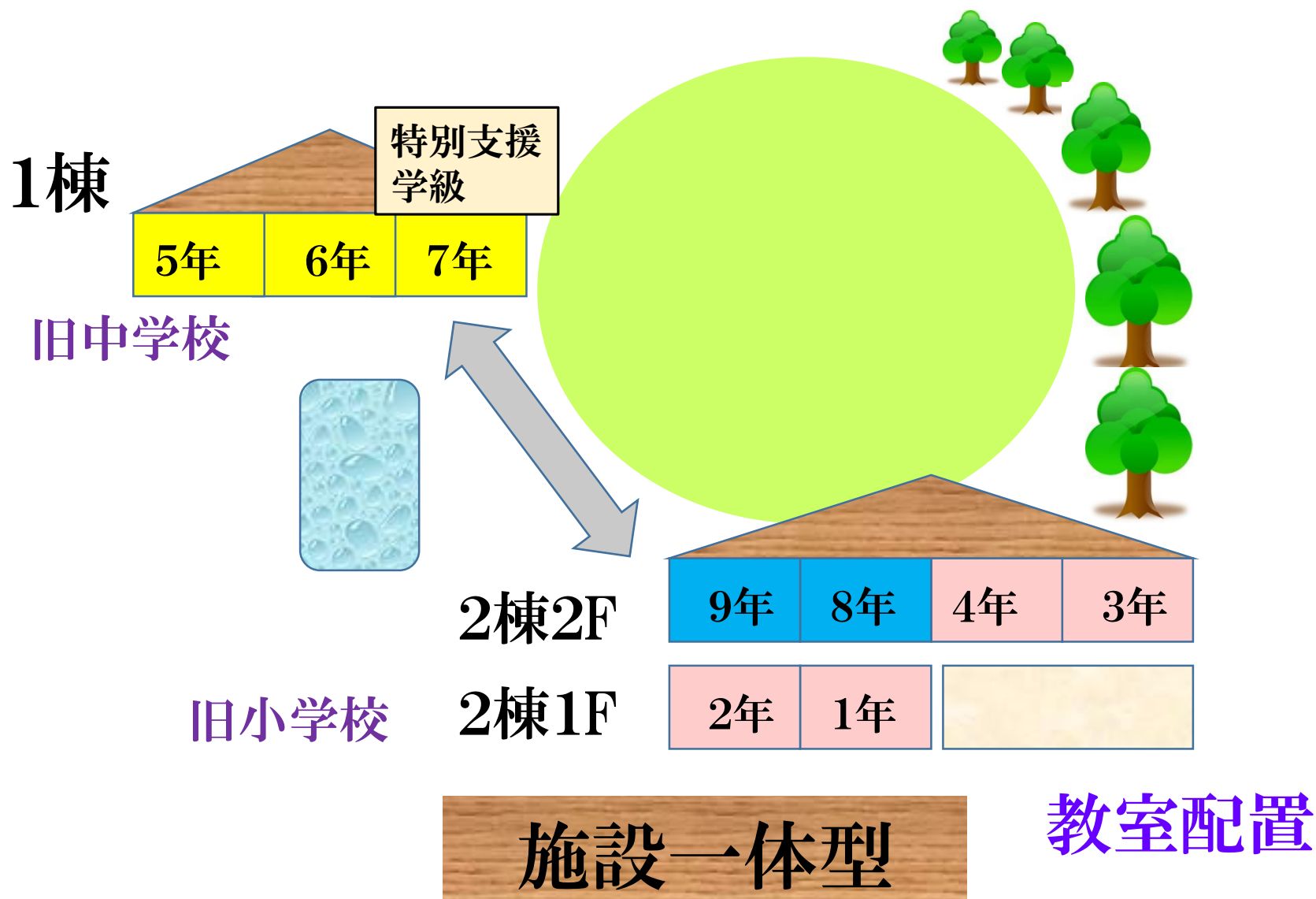
5年生から定期考査の実施（指導と評価の一体化）

ブロック活動の充実

&

ブロック間交流

(4) 教室設置



4 令和3年度 学校教育目標について

誇り高く、夢大きく、
心つながり合える児童生徒の育成

学校テーマ 「全員でかがやく」

学 園 訓

ふるさとへの誇りを胸に、自らの夢をかなえよ！

＜高森町＞

第3次 高森町新教育プラン

高森に誇りを持ち、夢を抱き、元気の出る教育

令和3年度 ブロックごとに目指す姿

めざす児童生徒像	共有したいもの 【育成を目指す 資質・能力】	Sブロック(1年~4年)	Mブロック(5年~7年)	Lブロック(8年~9年)
自ら学び考える児童生徒	こんな姿で学んでほしい！ 【気づく力】 【伝える力】	○課題に対して経験したことを生かしながら、自分の考えをしっかりと持ち、積極的に伝え合うことができる。	○身の回りの課題に気づき、互いに考えを伝え合いながら、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。	○これまでの学びを生かし、多面的な意見を出し合いながら、考えを深めたりまとめたりすることができる。
人権感覚に満ち、思いやりの心を持った児童生徒	こんな、人との関わり方をしてほしい！ 【受容する心】 【つながる力】	○自分や友だちの良さを知り、思いやりの心を大切にしながら、学級の一員としての役割や責任を果たすことができる。	○自分や相手の、よさや可能性を見出し、学級や学校の一員としての役割と責任を自覚し、進んで計画を立てて行動することができる。	○自分や相手のよさや可能性を認め、幅広い人間関係の大切さを理解し、仲間と協力しながら行動することができる。
たくましく、元気な児童生徒	こんな、自分との向き合い方をしてほしい！ 【自らを律する力】 【粘り強さ】	○自分自身の命・心・体を大切にしながら、健康的な習慣を身に付け、粘り強くがんばることができる。	○健康で安全な生活を送るために、自らの心身の状態を理解し、計画的・継続的に行動することができる。	○自らの心身の状態を理解し、心身共に充実した生活を送るために、自らを律し、工夫・改善しながら行動することができる。
地域を誇る児童生徒	こんな、郷土への思いを持ってほしい！	○高森の自然や人々の思いを知り、高森のよさに気づき、夢を持つことができる。	○高森町の自然や人々の思いを胸に、地域の貢献しながら自らの夢を広げることができる。	○高森町の自然や人々の思いを胸に、社会に貢献しながら、夢の実現を目指す。

高森東学園 5 つ の 約 束 の 徹 底

全ての計画をブロックごとの発達段階で作成

ブロックでの活動例 (Sブロック)

読み聞かせ後 の感想発表



月目標の話し合い と発表



2020/7/10

ブロックでの活動例 (Mブロック)



4月のMブロック開き



朝の聞く・話す活動



放課後活動
(100マス計算)

ブロックでの活動例 (Lブロック)



夏休み明け
Lブロック集会



起業体験ゲーム



【ブロック間交流】

令和元年度

← 歓迎遠足



児童生徒集会
(縦割り班ゲームの様子)

エンジョイタイム
(昼休みの様子)



【児童生徒総会】

3年～9年生が参加
1年間の児童生徒会活動を、みんなで考えることができました！

令和元年度



【中体連推戴式】



先輩の姿を見て
学ばっていいですね！

令和2年度



自創会集会(オンライン)

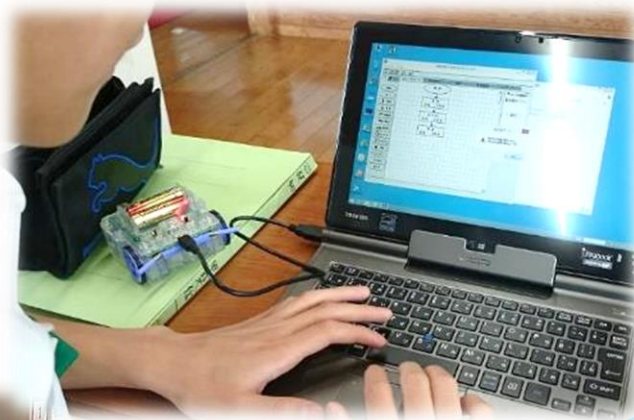


5 ICT機器を活用した授業改善

- ◆ H24から段階的に導入
- ◆ 目的に応じたツールとしてのICT活用
- ◆ 教師の活用 → 児童生徒の主体的活用へ



・テレビ会議専用機



- ・ タブレット端末（一人一台）
- ・ 学習支援ソフト
- ・ 無線LAN整備
- ・ Web共有ボード
- ・ Webカメラ



- ・ 電子黒板、実物投影機常設（全教室）
- ・ デジタル教科書完備

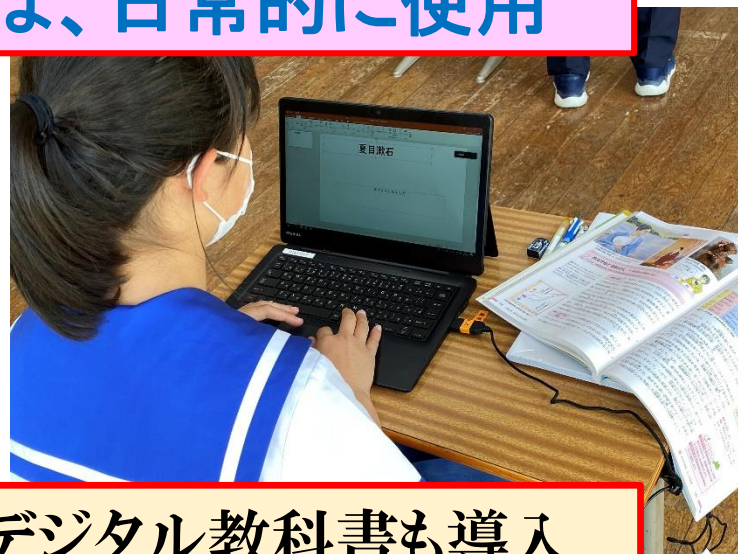
- 学校間、専門機関と接続した遠隔授業
- 全児童生徒、一人一台のタブレット端末
 - ・学校では日常的に使用
(家庭に持ち帰り使用も多い。)
 - ・休校期間中は、オンライン授業
 - ・現在は、欠席児童生徒に対してオンライン（遠隔）支援を実施
- タブレット図書館
- 家庭の“Wi-fi環境整備”が必要
 - ・町の支援あり



実践の様子



電子黒板、タブレットは、日常的に使用



令和3年度は、学習者用デジタル教科書も導入

地域との交流



郷土料理教室



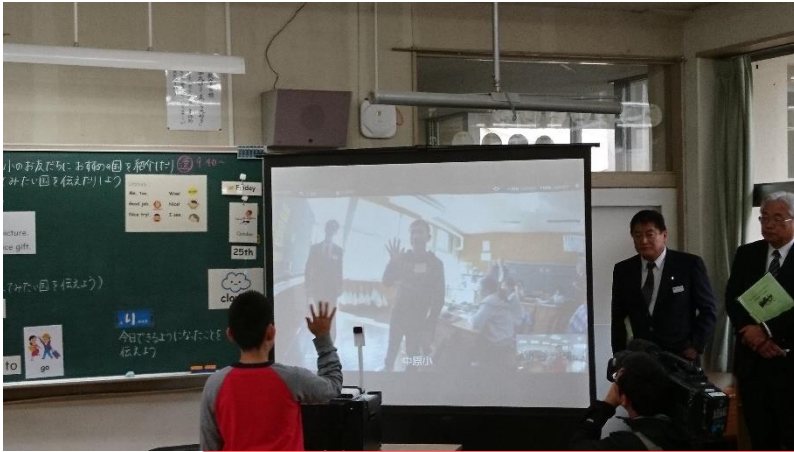
みさを大豆収穫



令和2年度

ミニトマト栽培について、
専門家から直接指導
(ビニールハウスから、
遠隔システムを使って接続)

英語・外国語活動（オンライン）



5年生

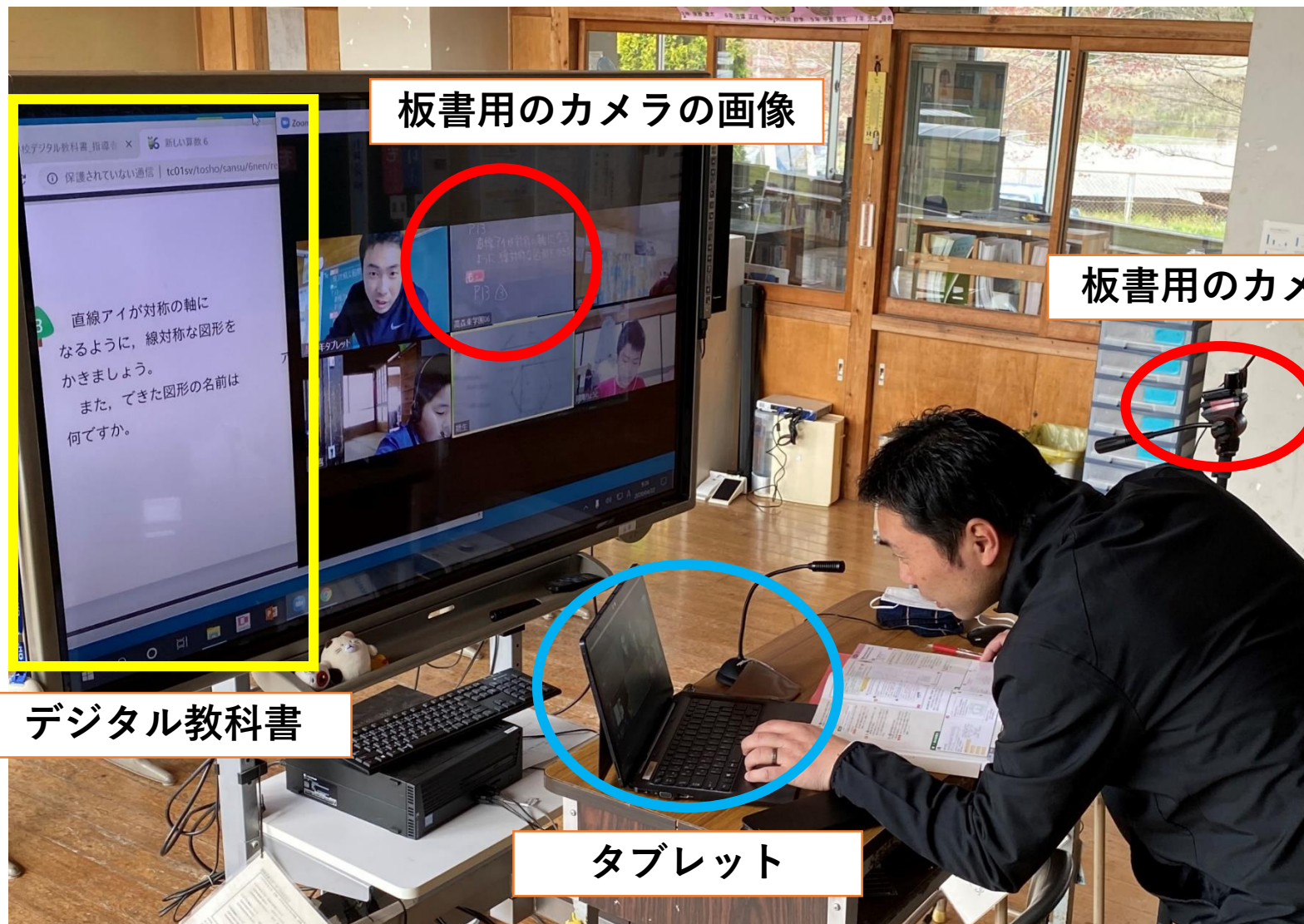
南小国町立中原小の児童とのコミュニケーション

○ALT(週1回来校)



○来校日以外も、ALTとオンラインでつなぎ、コミュニケーションがとれる。

休校中のオンライン（遠隔）授業



休校中のオンライン（遠隔）授業





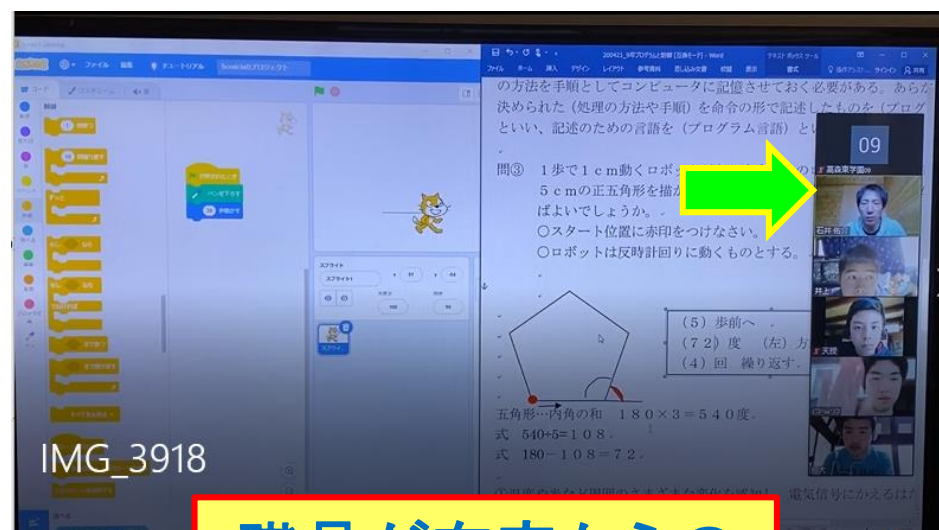
体育



音楽



ICT支援員の協力も
得ながら



職員が在宅からの
オンライン授業

欠席児童生徒へのオンライン（遠隔）支援



タブレットで接続



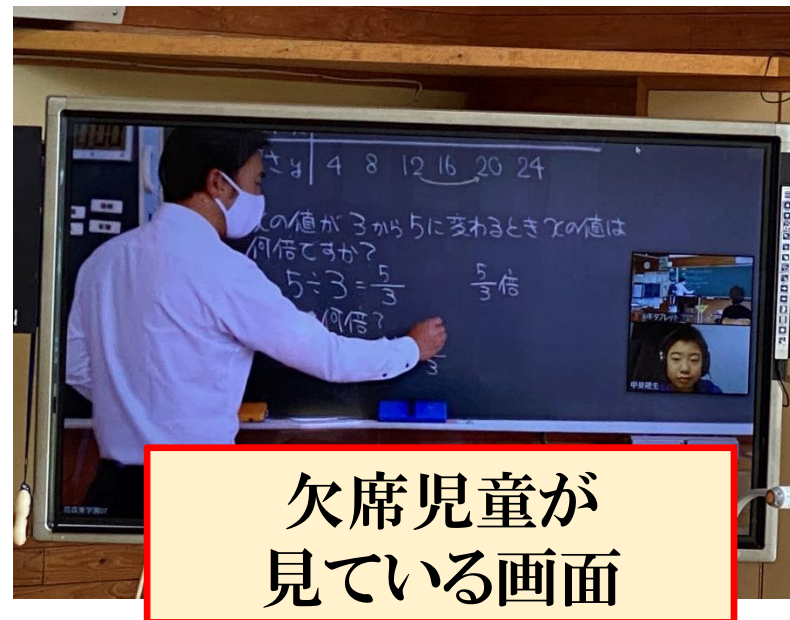
欠席児童が
見ている画面



みんなで音読をする際
には、欠席児童も拡大
して表示し、参加

1年生

欠席児童生徒へのオンライン（遠隔）支援



6年生



授業以外での活用

児童生徒は、
各教室から受講

薬物乱用防止教室

当日、欠席した
児童から感謝状

自創会役員引継ぎ式

夏休み中のオンライン(遠隔)学習支援



時間割をつくり、各教科ごとに先生への質問タイム



児童生徒同士がつながり、自由に交流しながら学習

その他、児童生徒たちだけでなく、職員も町内の職員研修、会議、打合せ等で活用中

タブレット図書館

R2/10/14運用開始式



- 一人一人がIDを持ち、自分のタブレットで読むことが可能
- 同じ図書を500冊まで貸し出し可能



1年生「本のしょうかい」

在宅からのオンライン(遠隔)授業

5月13日(木) 2校時

7年生
道徳

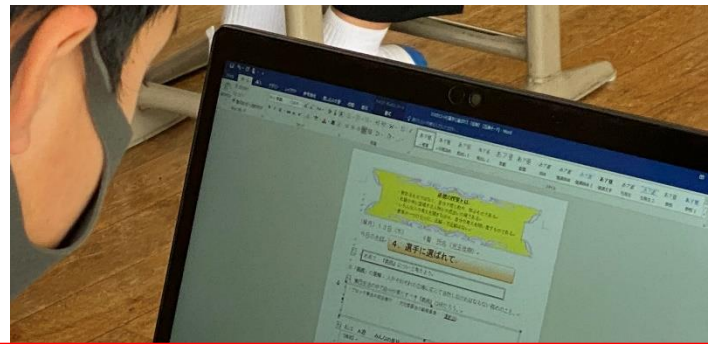
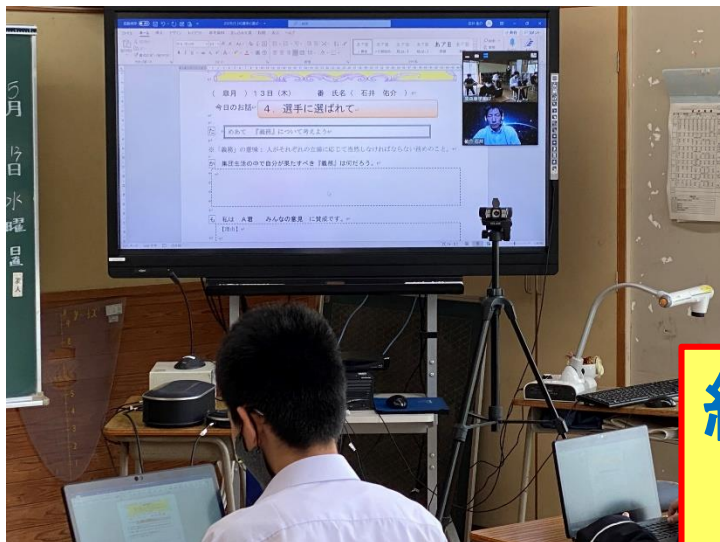
担任



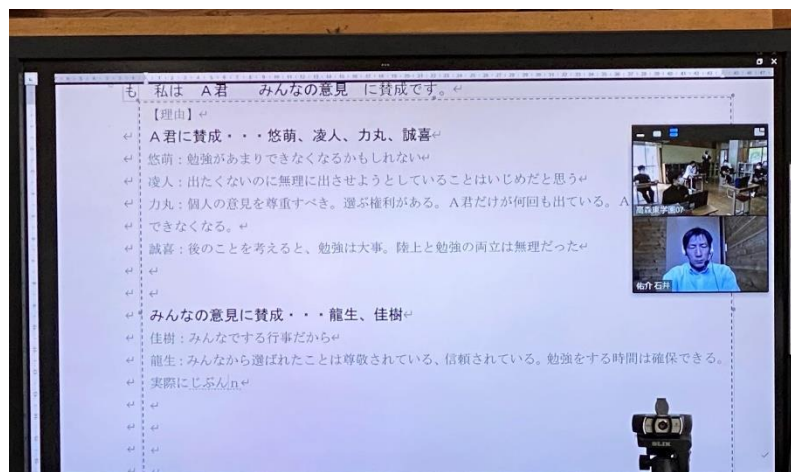
教室には生徒のみ



教科書を読んで考えるのは、
普段と同じ



紙に代わって、
タブレットでワークシートを共有



出された意見を、
電子黒板で共有



普段の授業のように、
全生徒が発表

ICT機器（タブレット）の位置付け

ICT機器（タブレット）は、児童生徒が21世紀型スキルを身に付けていくため、授業改善（学力向上、「たかもり学習」充実）のための道具



「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」（文科省）

ICT環境整備が前提
タブレットは、「（高価な）文房具」

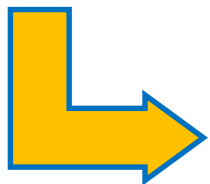
今後に向けて

タブレットの持ち帰り活用
の発展・充実



タブレットのみを家庭に持ち帰る

- 学習者用デジタル教科書の導入
- 家庭学習等でのデジタルコンテンツの活用
(本校でも、ドリル系アプリ「eライブラリー」導入)



働き方改革へも、期待

6 義務教育学校（小中一環教育）の メリット

- 異学年集団による教育活動が多く展開され、**子ども同士で学び合う姿**が見られる。（下級生の手本になりたい、上級生のようにになりたい、など縦のつながり）
- 異学年、異校種間の交流により、**相手意識が高まり、互いを認め合う姿が学力向上**にもつながっている。



- **中学校教員の専門性と小学校教員の丁寧さを互いに学べる環境がある。**
(職員の一体感)
- すべての職員が、**9年後の子どもの姿を意識**して教育活動を展開できる。
- 中学校の教員も前期課程（小学校）の担任をしたり、授業をしたりできるので、学校裁量の幅が広がる。
- 小学校課程の時間に余裕があり、**ゆとりある教育課程が展開**できる。



7 義務教育学校（小中一貫教育）の課題

- 本来発揮されるはずの、**小学校6年生のリーダーシップ**が薄れてしまう。
(子どもの成長の節目は大切である。本校では、4年生・7年生がブロックリーダーとして育つ。)
- 学校全体としての行事の多さ。
- 9学年全体が動くことでの綿密な調整。





朝の全員ランニングより